

平成27年度 学校教育計画（年度末評価）

73 長野県塩尻志学館高等学校

教育理念	一 真理の探究 一 自他の敬愛 一 責任の完遂		
学校教育目標	(1) 現代社会におけるグローバル化・情報化の進展や産業技術の発展をふまえるとともに、生涯にわたる人間形成の基礎を培い、多様な科目を開設して生徒の個性を伸ばさせる。 (2) 将来の職業選択を視野に入れた進路設計への自覚を深めさせ、社会の変化に主体的に対応できる心身ともに健康な人材を育成する。 (3) マンツーマン指導を基本として、個々の生徒の興味・関心・能力・適性及び進路等にきめ細かく対応し、それぞれの希望する進路実現を支援する。		
中期目標	① ライフプランを確立させ、第一希望で進路実現させ得る組織的な学校づくり ② 十分に体系化されたキャリア教育のシステムによる「生きる力」を育成する学校づくり ③ 授業等の様々な学習活動を通じて、健康な心身と体力を育成する学校づくり ④ 地域社会と連携し信頼される、開かれた学校づくり ⑤ 知識の確実な定着と実践的思考力を養う、魅力ある授業の研究 ⑥ 特色ある系列と進路実現に有効な科目選択の研究	総合評価	・各部署による自己評価の結果は、ほとんどがA評価であり、年度当初の目標が概ね達成できたものと考えられる。 ・引き続き学力向上に努めるとともに、生徒がさらに充実感をもてる学校づくりに努めたい。

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	中期目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題・改善策
教務	1. 学校生活全般を通して、効果的で魅力的な教育活動が行えるよう、他部署と連携しながら円滑な学校運営を行う。	①③⑤	ア. 月暦・日課等の周知・徹底 イ. 授業研究・授業公開等の推進・サポート ウ. 各種研修の推進・サポート	A	・円滑な学校運営を行うことができた。 ・授業研究・授業公開については、来年度さらに充実させたい。
	2. 塩尻志学館高校および総合学科の魅力を中学校・保護者・地域に積極的に発信し、地域に愛される学校づくりに努めるとともに、本校を志願する意欲的な生徒が増えることを目指す。	④⑤	エ. 公開授業および体験入学の充実 オ. 中学校訪問および中学生への広報活動の充実 カ. Webサイトの活用 キ. 入学者選抜（前期選抜）の改善と中学校への周知	A	・公開授業・体験入学では、多くの参加者があったが、来年度さらに参加者を増やすよう努めたい。 ・Webサイトを通して積極的に外部へ情報を発信することができた。
進路指導	1. 学年との協力だけでなく、キャリア教育推進部とも連携して、体系的・組織的に指導できる体制を整える。	①②③⑤⑥	ア. 単年度にとどまらず、次年度以降に踏襲できるシステムやノウハウについて、一定のめどを立てる。	A	・キャリア推部との合同提案に基づき、英数国で毎日の宿題を出してもらい、基礎力を養っている。 ・キャリアデザインや総合研究の活動や研究が進路とうまくつながった。
	2. 進路実現に向けて自ら積極的に行動できる生徒の育成を図る。様々な資格試験の受験を奨励する。	①②④⑥	イ. 補習授業（桔梗塾を含む）の実施回数および種々の検定試験の受験者数を増やす。 ウ. 進路実績の向上。	A	・検定受験者、自習室利用者ともに増加している。 ・4大志願者の増加に伴い、学習意欲の高い生徒が増えている。
生徒支援	1. 「対話と共感」、「自立と支援」の生徒指導 ①基本的生活習慣の確立 ②服装・頭髪等の身だしなみを整える ③携帯・スマホ利用に関する注意喚起 ④交通事故の未然防止	①②③④	ア. 職員の共通理解と意識を統一し、生徒への声かけを大事にする。 イ. 家庭との連絡や相談、スクールカウンセラーの有効活用などで生徒や保護者を支援する。 ウ. HR担任、教科担任、生徒会、クラブ顧問との連絡を密にし、生徒個々の動向を明確に把握できるようにする。	A	『対話と共感・自立と支援』を大切に考えた生徒支援・指導を職員の理解と協力もと実践する事ができた。生徒一人ひとりが主体性をもって学校生活を送る中で「自立心」が育まれ、「仲間や学校を大切にす気持ち」となって行動に表れていた。様々な行事の場面や
	2. いじめを出さない学校づくり ①いじめに対する未然防止、早期発見、早期対応、再発防止を組織的に取り組む ②常に開かれた相談態勢を整える	①②③④	エ. 学習、行事、生徒会、クラブ活動を通して、学校生活の積極的な意義を見出すよう指導援助する。 オ. 交通安全指導を折りにふれて行ない、生命を尊重し安全を確認して行動する習慣を確立させる。	A	日常の様子から生徒の成長した姿を見る事ができた。いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けて年間2回の「hyper-QUアンケート調査」を実施した。更に個人面談や相談室の活用など多角的に支援を行えた。

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	中期目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題・改善策
キャリア教育推進	1. キャリア教育の充実	①②③ ④⑤	ア. 3年間の体系的な教育計画に基づき、各業務の運営ができたか イ. 活動、まとめ、発表、討議の場を設け、生徒の主体的な活動に結びつけたか	A	・部会での授業案の審議がきめ細かく行われたことにより、個々の学年の学習目標を全体で共有することができた。
	2. 科目選択の充実	①②③⑥	ウ. 個々の生徒が、より自己にとって適切な科目選択ができるような指導体制の構築ができたか エ. 複数の段階的で有効な点検ができたか オ. 職員間の十分な検討の機会が持てたか	A	・多くの職員に科目選択の趣旨を理解してもらい、生徒のキャリア育成に必要な助言をしてもらった。 ・学年・科目選択作業委員の意見を取り入れて科目選択作業が実施できた。
	3. 将来構想への取り組み	④⑤⑥	カ. 本校の将来構想について、計画的な取り組みができたか キ. 職員間の討議の場を設け、本校のあるべき姿についての方向性を示すことができたか	B	・他校総合学科との連携について検討を始めている。 ・地域と連携して授業を行う中で、学校の在り方を考える機会は多くあったが、職員全体で議論する機会を設けることができなかった。
生徒会	1. 全校生徒が志学館生として「自覚」を持ち、お互いに「絆」を感じる校風を築く。	①②⑤⑥	ア. 学校生活の中で、生徒会本部会、委員会、クラブ、地域活動等で各生徒の充実感や達成感を高める。 イ. 集会、壮行会等で全員が大きな声で校歌を歌い、挨拶等ができ、志学館生としての自覚が持てる。	A	文化祭では2棟の建設に伴い、中庭が使用できないなどの制約がある中、創意工夫して無事に実施することができた。新入生も生徒会活動や部活動を通じて、志学館生としての充実感や達成感を高めている。
	2. 各委員が自覚と責任を持って仕事に通り組み、自主性を高める。	③④	ウ. 委員会活動において、目標を達成させる。	A	日々の当番活動に、自覚と責任を持って取り組んでいる。選挙管理委員会では、投票方法をより本物の選挙に近づけるなど、新たな取り組みが行われた。2年振りに募金活動を実施した。
図書・視聴覚	1. 図書館運営の充実を図る	①②③④	ア. 図書館利用の活性化が図れたか ・生徒個人の利用 ・授業の利用 ・広報活動	A	・委員会の広報活動が活発に行われ、本の貸し出し数も例年より増加した。 ・授業や課題学習など多くの授業で図書館を利用していただいた。
	2. 視聴覚教育の充実を図る	①②③④	イ. 視聴覚教室の利用促進が図れたか ウ. 芸術鑑賞の円滑な運営が図れたか	A	・年間を通じて授業で利用していただいた。 ・芸術鑑賞では円滑な運営が図れ、好評でした。
保健厚生	1. 校舎内外の美化・清掃の強化	①②③	ア. ゴミの分別と減量化・生徒の取り組みの強化	A	・ゴミの分別・減量化にさらに取り組んでいきたい。 ・自覚と責任を持って委員会活動ができるようになってきた。
	2. 検診のスムーズな運営	①②③	イ. 保健委員会と職員の協力体制を確立する ウ. 外部講師の精選と教育方法の研究をする	A	・職員の協力を得てスムーズな運営ができた。
	3. 性教育と薬物教育の充実		エ. ストレスの軽減とリフレッシュ行事の推進	A	・計画通りに実施することができた。
	4. 職員厚生の充実	①②③④		A	・約半数の参加者により計画通り実施することができた。さらに参加者が増えるように工夫したい。
渉外	1. 学年・学級PTAの充実	④	ア. 学年・学級PTAを開催する イ. 授業参観や講演会を企画する	A	予定通りに運営することが出来た。学校評価のアンケートも行った。
	2. 保護者との連携強化	④	ウ. PTA研修やPTA研修旅行を充実させる エ. PTA通信を発行する	A	充実した研修旅行が実施できた。文化祭や強歩大会などでPTA活動が活発に実施された。
	3. 同窓会との連携	④	オ. 同窓会活動への協力 カ. 大会出場生徒（北信越大会以上）への活動助成	A	学校と同窓会との関係がより深くなり、協力体制は整ってきた。

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	中期目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題・改善策
1 学 年	1. 基本的な生活習慣の確立	①②	ア. 家庭との連絡が密にとれたか。 イ. 能率手帳を活用し生活習慣の意識付けができたか。	B	ア. 家庭との連携をとり、生活習慣の乱れも未然に防ぐことができた。 イ. 能率手帳の活用は、クラスや生徒により温度差が生じ、活用の指導が徹底できなかった。
	2. 学習習慣の確立	②③⑤⑥	ウ. 家庭学習の習慣化に向けてはたらきかけができたか。 エ. 学習意欲を高めさせ、科目選択への意識付けができたか。	A	ウ. 1年間、英数国の宿題を継続的に課すことで、家庭学習の定着化をはかることができた。 エ. 科目選択では自分の進路を見つめながら真剣に取り組む姿勢を醸成させることができた。
	3. 相互理解を深める	②③④	オ. 互いに尊重し合える関係が築けるようにアドバイスできたか。	A	オ. 教員の適切なアドバイスにより、生徒同士も良好な関係が保たれている。
2 学 年	1. 進路意識の高揚	①②③ ⑤⑥	ア. スコア手帳などを活用し学習習慣の向上が図れたか。 イ. 資格取得への積極的なアプローチができたか。 ウ. 個別に、学力・生活状況に応じた相談、助言ができたか。	B	スコア手帳の利用者は増えたが、効果的に活用させるには課題が残った。進路に応じた科目選択等において指導助言ができた。各種検定を積極的に受験するよう指導し合格者が増えた。
	2. 研修旅行の充実	①②③ ④⑥	エ. 進路を考える機会を与えられたか。 オ. 平和学習の充実が図れたか。 カ. 相互理解を深め、協力・協働体制がとれたか。	A	充実した事前学習のもと、旅行中は進路や平和について真剣に考えられ、その上自分の役割を自覚した協力体制が作れた。また事後学習も充実させることができ目的を達成できた。
3 学 年	1. 進路実現への指導、支援体制の充実	①②③⑤⑥	ア. 学習意欲の向上、資格取得へのアプローチが図れたか。 イ. 卒業生アンケートによる満足度の向上が得られたか。	A	進路指導部との連携によりセンター試験には例年以上の生徒が挑戦し、結果に結びついた生徒もいる。卒業生アンケートでは90%以上の満足度を得られた。
	2. 学校生活の充実と最上級生としての活動支援	②③④⑤	ウ. 学校行事、生徒会行事において責任ある活動ができたか。 エ. 規範意識の向上、社会性が身につけられたか。	A	生徒会活動や総合研究発表会などの学校行事において、最上級生としての自覚をもち、充実した時間を過ごすことができた。